

エコ・サイエンス研究所シンポジウムの概要

平成 28 年 2 月 19 日（金）15:00~17:30、中百舌鳥キャンパスにおいて、「エコ・サイエンス研究所シンポジウム」を開催しました。

- ◆主 催：21 世紀科学研究機構 エコ・サイエンス研究所
- ◆共 催：E~キャンパスの会、環境部エコロ助、里環境の会 OPU、はなさかプロジェクト
- ◆開催場所：B3 棟 117 室
- ◆参加者：72 名

本シンポジウムは、これまで大阪府立大学の環境人材育成教育プログラムを構築・運営するとともに、学生環境団体と連携し、事業体としての大学の環境対策を推進してきた「エコ・サイエンス研究所」が平成 27 年度末に閉所し、平成 28 年度に新たに「環境教育研究センター」を発足することを契機に開催することになりました。

シンポジウムでは、挨拶を行った石井実理事・21 世紀科学研究機構長から、新たなセンター設立の経緯や意義について説明があり、エコ・サイエンス研究所長、学生団体である E~キャンパスの会、環境部エコロ助、里環境の会 OPU、はなさかプロジェクトからそれぞれ活動内容を報告しました。

また、これらの報告を受けて、参加されていた学内外の方々とともに、今後の環境活動の展開について意見交換を行いました。



◆各団体の活動報告

(1)エコ・サイエンス研究所

大塚耕司エコ・サイエンス研究所長（工学研究科教授）が平成 20 年 4 月の設立以降、8 年間に及んだ活動内容を報告しました。活動内容は多岐にわたり、本学の環境に関する取組みが進展しました。



(2)E~キャンパスの会

田中大樹（現代システム科学域）が E~キャンパスの会の活動内容を報告しました。E~キャンパスの会は「大阪府立大学環境報告書」の作成を進めるために設立された団体で、関係者へのインタビューやデータの収集整理を行い、記事の作成・編集を進めています。



(3)環境部エコロ助

北島総一郎（工学域）、平田幸輔（現代システム科学域）、中西真穂（現代システム科学域）の3人が環境部エコロ助の活動内容を報告しました。部員数140名を誇るエコロ助では、学園祭においてゴミの分別収集、リユース食器を用いたエコ店舗の運営等を推進する他、環境教育班などの各班に分かれて多彩な活動を展開しています。



(4)里環境の会 OPU

井宮暉仁（現代システム科学域）が里環境の会 OPUの活動内容を報告しました。里環境の会 OPUは、野外活動・勉強会・キャンパスビオトープ活動を主な活動内容としています。平成28年は中百舌鳥キャンパス内にあるショウブ池のヨシ狩りを行い、そのヨシを用いて紙を作る計画を進めています。



(5)はなさかプロジェクト

大田崇暉呂（現代システム科学域）がはなさかプロジェクトの活動内容を報告しました。はなさかプロジェクトは平成27年度に、中百舌鳥キャンパスの生協前の花壇に日時計を作り、その周りに花を植えました。



◆今後の展開に向けての意見交換

活動報告の後に、大塚教授をファシリテーターとし、コメンテーターに増田昇生命環境科学研究科長を迎えて、各学生環境団体の代表者も加わり、意見交換会を行いました。

参加していた学内外の多くの関係者から、継続的な環境活動の展開を期待する声上がる等、建設的かつ活発な意見交換が繰り広げられました。

